

**ポイント1** 児童生徒が働かせる数学的な見方・考え方を明確にして、単元や授業を構想する。

※指導事例の「見考」は、児童が数学的な見方・考え方を働かせている場面です。

**ポイント2** 自力解決の状況を見取り、学び合いを構想する。

＜構想する際の視点の例＞

- ・取り上げる考えと順番（不十分な考えや誤答の扱いも検討する）
- ・提示する内容（式・図・表・グラフ 等）
- ・説明させる内容と方法
- ・考えの結び付け方（取り上げた考え同士、既習事項 等）

**ポイント3** 児童生徒の主体的な学びを保障しながら、適切に教師が発問や問い返しをしたり、発表に表れる数学的な見方・考え方を価値付けたりすることにより、学びを広げ深める。

## 小学校の指導事例 第4学年 面積（5／11）

《ねらい》複合図形の面積の求め方を、既習の正方形や長方形の求積公式を活用して考察することができる。

### ①導入場面

**問題**

どちらの面積が大きいですか？

(単位cm)

L字型の方が大きそう。正方形の面積は求められるけど…

L字型の図形の面積は、どのように求めるのかな？

長方形や正方形の面積の求め方は分かるから、それらを使って求められないかな？

学習問題で「あれ？」「やってみよう！」などの思いを引き出し、児童生徒が自ら解決の見通しをもつことができるようにしましょう。

### ②学び合い

#### ○考えを伝え合う場面

※式と図を別々に提示した展開例

式は  $6 \times 2 + 3 \times 4 = 24$   
だから  $24 \text{ cm}^2$  です。

式だけだと、どのように求めたのかよく分からないなあ…

**見考** 図のように、二つの長方形に分けたのだと思います。式の  $6 \times 2$  は左側の長方形の…

なるほど！

式と図を関連付けて説明すると分かりやすいですね。  
(考察の価値付け)

学びを広げ深めている児童生徒の姿を具体的に想定しながら、授業を構想したり、教師の関わりを工夫したりしましょう。

#### ○統合的・発展的に考察する場面

分ける  $3 \times 2 + 3 \times 4 = 24$	ひく  $6 \times 6 - 3 \times 4 = 24$	いどうする  $6 \times 4 = 24$
---	--	--------------------------------

どの考え方も、面積は  $24 \text{ cm}^2$  です。正方形の面積より小さいんですね。

どれもよい考えですね。求め方に共通点がありますか。(統合的に考えさせる問い)

習った面積の求め方が使えるように、形を変えているところが共通しています。

図形の形が変わっても、今日の全ての考え方が使えますか。(発展的に考えさせる問い)

いつでも使える考え方と、特定の場合にしか使えない考え方があります。例えばこの図形では…

